

JISA 中部地区会 開催報告

令和 8 年 9 月 7 日（月）、名古屋観光ホテル「曙西」の間において令和 8 年度中部地区会が開催された。参加者は関係者含め 48 名であった。



中部地区会
代表幹事
勝寄 保徳氏

冒頭、中部地区会 代表幹事（株式会社中電シーティーアイ 執行役員）勝寄 保徳氏が「本日の地区会は、経済やデジタル化の最新動向を学ぶことと参加者同士の交流を深めることを目的として企画した。参加者間の連携や共創の促進につながる機会となることを期待している。」と挨拶した。

また、JISA 副会長（株式会社ワイ・シー・シー 代表取締役社長）長坂 正彦氏が「自然災害が相次ぐ中、IT 業界は社会インフラを支える重要な役割を担っており、社会からの信頼を一層高めていくことが求められている。業界の多重構造からの脱却と新しい価値創造型の事業展開を目指し、JISA「AI 共生宣言」を羅針盤としてイノベーションを含む各地域の活性化ひいては産業の更なる繁栄を目指していきたい。」と挨拶した。



情報サービス
産業協会 副会長
長坂 正彦氏



愛知県情報サービス
産業協会 会長
古川 博史氏

次に中部エリアの関連団体を代表し、一般社団法人愛知県情報サービス産業協会（AIA）会長 古川 博史氏から、「IT 業界として先端技術やデジタルデータを活用し、災害時の人命救助や被害軽減に貢献することを目指したい。また、愛知・名古屋のイノベーション発信やスタートアップ支援の拠点を新たなビジネスに繋げたい。さらに、アジア大会・アジアパラ大会を契機にデジタル技術を広く発信し、地域の IT 業界が連携して地域経済を盛り上げていきたい。」と挨拶があった。

講演会では、一般社団法人情報サービス産業協会副会長・専務理事 高橋 淳氏が「日本経済の展望と日本企業のデジタル化促進のために」と題する講演を行った。講演では、近時の政権の重要課題の変遷について、「賃上げ最重視モードは高市政権下でやや一段落。DX・デジタル政策は一定の地位を確保しており、地方創生施策重視は継続している。一方、外交・安全保障分野の重要性が高まっている。」と分析。賃上げの状況については「賃上げの基調が続いているが、中小企業では従業員確保を目的とした防衛的な賃上げが目立つ。」と述べた。デジタル化・DX化の状況については



情報サービス
産業協会
副会長・専務理事
高橋 淳氏

「政府のデジタル政策は官民投資を重視する方針へ転換し、AI や半導体分野への重点的な投資スキームが構築されている。一方、DX は投資効果の面で踊り場に来ている。日本企業の AI 導入は業務効率化に留まる傾向があり、新たな価値創造や顧客満足度向上への活用が課題となっている。」と指摘。東海地域については「情報産業の比率が低いものの、大学発ベンチャーの成長が新たな起爆剤として期待されている。」と述べた。



株式会社 eiicon
執行役員 東海支社長
地域イノベーション
推進本部 本部長
アライアンス推進室
管掌役員
伊藤 達彰氏

続いて、株式会社 eiicon 執行役員 東海支社長 地域イノベーション推進本部 本部長 アライアンス推進室管掌役員の伊藤 達彰氏が「中部圏におけるスタートアップ連携の動向から見える、自前主義からの脱却手法」と題する講演を行った。講演では、スタートアップという起爆剤を使って新しい産業を生み出し、愛知からグローバルに広げていく「Aichi-Startup 戦略」を愛知県が 2018 年に策定したことを紹介。「スタートアップとのオープンイノベーションが、自前主義から脱却し新規事業やイノベーションを創出する有効な手段である。特に、スタートアップが持つ課題発見力と他の企業が持つ実装力を組み合わせることが価値創造に繋がる。」と述べた。また、連携上の留意点として「オープンイノベーションによる共創では、外注先のような

上下関係ではなく、一緒に事業を創るパートナーとして接することが重要。自分たちでできることとやりたいことのギャップを埋めるのがオープンイノベーションのパートナー。ピッチイベントに参加する前に、まず自分のやりたいことを決めると良い。」と指摘した。

講演会の後は桂の間にて懇親会が行われ、一般社団法人愛知県情報サービス産業協会 副会長 富板 恒匡氏から乾杯の挨拶があり、歓談へと移った。

中部地区会は、勝寄代表幹事の挨拶で、盛会のうちに閉会した。（事務局）



愛知県情報サービス
産業協会 副会長
富板 恒匡氏



懇親会の様子